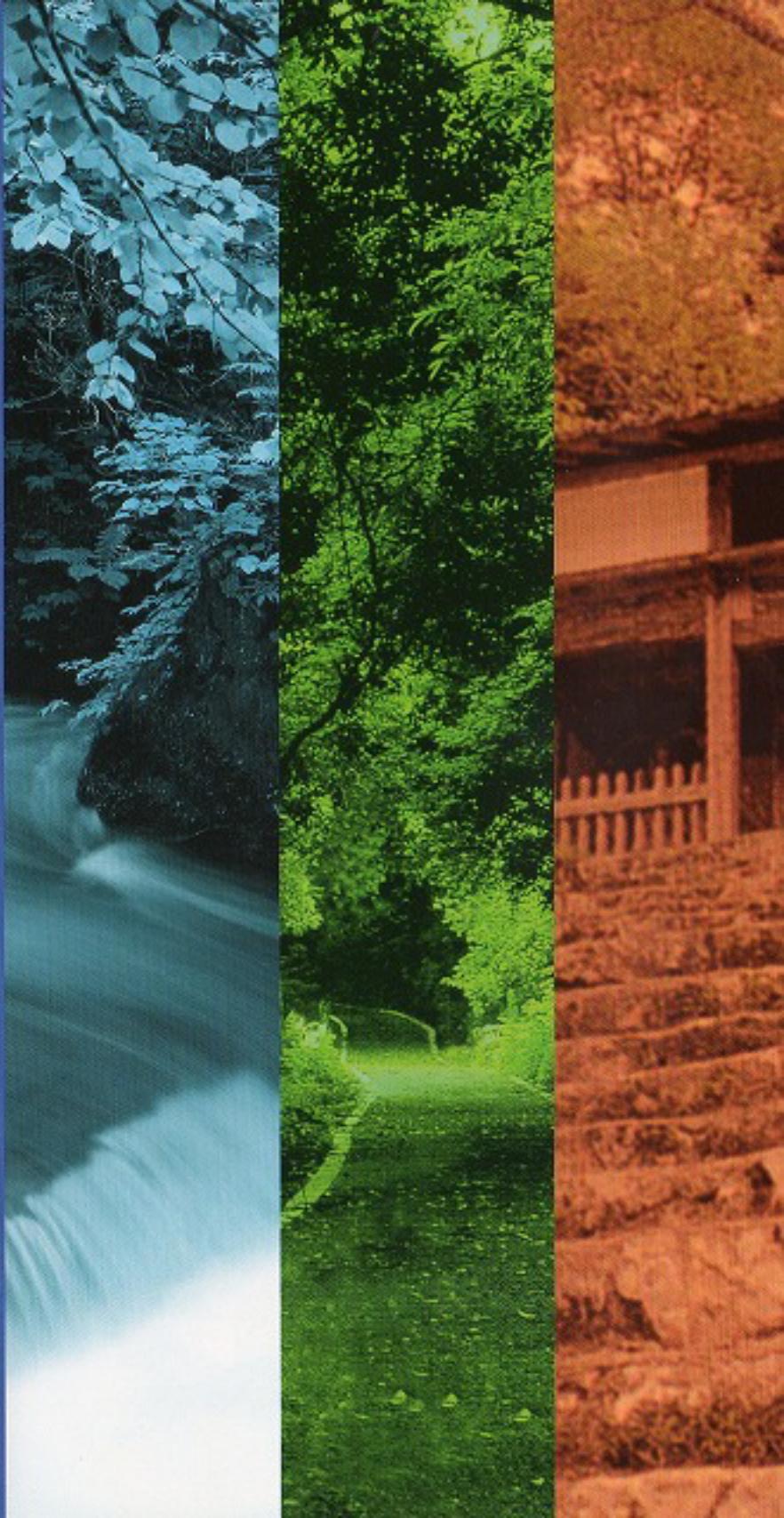


# 大淀名所ガイド

歴史とむかし話で綴る



## I N D E X

|                     |   |
|---------------------|---|
| 探索マップ               | 1 |
| 世界遺産(北信)            | 1 |
| ■ <b>くすの木仙</b>      | 1 |
| 柳の源流(「北六田」)         | 1 |
| ■ <b>おひの地蔵</b>      | 1 |
| 聖地巡礼 大曾古道(西尾)       | 1 |
| ■ <b>安曇の津</b>       | 1 |
| 古道旅策マップ             | 1 |
| 今木権現堂(今木)           | 1 |
| ■ <b>象徳寺のてんぐ</b>    | 1 |
| 理賃文化財               | 1 |
| 石屋(源氏)              | 1 |
| ■ <b>ひらはたの石原</b>    | 1 |
| ■ <b>さかさ竹</b>       | 1 |
| ■ <b>血の親見えない心</b>   | 1 |
| ■ <b>若い時の話</b>      | 1 |
| ■ <b>ほととぎすのなきごえ</b> | 1 |
| ■ <b>めすつとお姑姫さん</b>  | 2 |
| 水神祭                 | 2 |
| お太子さん               | 2 |
| 大美・歴史ガイド            | 2 |
| 荒岡 大学               | 2 |
| 松原本の領収              | 2 |
| 大沢の特産物              | 2 |
| 交通案内                | 2 |
| 吉野大曾根センターカンパニーの紹介   | 2 |



大淀町は、大阪の中心地から40Km、奈良市から53Kmの面積距離にあって奈良県のほぼ中央に位置し、位置的には吉野山開闢と大和平安を分ける結節点の位置にあり、近年は住宅都市として発展しています。

世界遺産に登録された吉野大峯奥駈道の山林として、豊かな歴史と文化が残されています。



吉野川の悠然とした流れを望む丘陵の町「大淀」  
「紀伊山地の靈場と參詣道」の世界遺産へ通じる町「大淀」  
吉野に至る交通の要所として栄え、歴史と民話が息づく町「大淀」

ほとぎすのなせうえ  
(芦原)  
昔話 2

おれの心は悲しく、悲しいまゝの兄弟がおへんと。」「うるさい」といふとおがく兄の方がな、重い病氣にかかっているとしゃべり、「そこの口説き心地のほかないよ」といふと、その心配して、なぜこじめよおななつてやむおなむねいふと、だいたいわかる、やまのこわを抱へさせたひえええいふから、心配したんだ。おがく曰く「心のやうで、えんじゆうほりあつたんじきせめたううな。なんぐんもせなじして食べても、せめておいたり、それがきじたんか、兄のほんとうはずは、やうに思ひたがうたうだい」。

病氣がなあある、兄はほんといふはずが、「あれの病氣のあることは、弟ややあらこゆるいほりかからぬかせていくれわれたが、わたりひととひやかんくわざりがあり」、あひじひはそれを食べどいたもとにもがひなり。こうだり、なにか思へば、わらうたるものか、「あたしもんや。」「思ひてが、もとが心地のこころをひうといふと、思ひて、思ひてしたたなうじい。わざいとをかみ見せんやな。思ひたじ



大定話

ぬすつととお地蔵さん(岩)

説小治政

A colorful illustration of a young boy with a dark cap and a blue long-sleeved shirt running towards a large, grey stone statue of a deity. The boy is looking up at the statue. The background shows green trees and bushes.

「これが。  
やめなさい。おはすのなご、お地蔵さんのお供が、たしか  
じは生きりと生きりしてゐたので、さういとは氣味がわるく  
ない、こそぞどその顔をたまひゆく。  
あくまでねたが、お地蔵さんのが氣にならへば、い  
うつてやねむのねないな。」  
ふんふん！ 誓さんじりともしなひで、腰のあけるのをま  
ね、「ごつごつとねんだあくびが、自分のしたいとを口に  
した。  
なんだか、そりしなじではござれなかつたのである。  
そしてそりの家の人といつたうて、腰のかゝつておいた  
お前君さんとのうれしきを、やうとお前君さんの顔をやめ  
じお前君でそれが二つやうやうにうしりしたやうにこ  
顔をしてきたので、おゆふいは顔の心配ひつた。  
やめながんばかりいかの顔かひと豆だつておゆふいをあ  
やめ、なんちやねんなへ聞こひがつたうていふにあが。

# 水神祭

毎年七月に水神祭が催され、子供みこしやお渡り式が行われ、夜には、夜店や花火で賑わいます。



## お太子さん

世尊寺にゆかりの深い聖徳太子の命日の法要のために地域で協力して行われるお祭りです。

「お太子さん」は、世尊寺にゆかりの深い聖徳太子の命日（四月二十一日）に、法要の為、江戸時代の中止により始められたそうです。

現在は四月の最終日曜日に開催されおり、大きな「おもち」を撞くことがあります。

名前は、このごくを奪い合ひある事から、別名「けんか祭り」とも呼ばれています。この「お太子さん」を盛り上げる為、地元の方々が露店や干本付き（お餅つき）催すなど、風情と活気を楽しむ事ができます。



水神祭は下瀬の八幡神社の境内にある水神社の例祭ですが、この水神社はもとは始ヶ森にあった鎌ヶ森神社でした。約三〇〇年前の万治三年（一六六〇年）の大洪水のとき、現在の古野町（國領から鎌ヶ森に流れついた御神体を、下瀬の人々が取り上げて鎌ヶ森神社として祀ったと伝えられています）。

明治四年に現在地に移されました。毎年七月に水神祭が催され、子供みこしや八幡神社から鎌ヶ森までのお渡り式が行われ、夜には夜店や花火で賑わいます。



## 大淀町の主な行事



盆供養

- 1月中旬 ..... 下瀬初戎
- 4月下旬 ..... お太子さん
- 6月1日 ..... 鮎供養
- 7月下旬 ..... 水神祭  
水汲み神事





貴重な文化財として後世に伝えた  
桜垣本の猿楽

## 貴重な文化財として後世に伝えたい



〇八)まで高野山麓の河根丹生神社(現和歌山県伊都郡九度山町)で歴舞を舞っていました。しかし、江戸幕府による大和四箇を中心とする統制政策に対するため、関係が深くまた当時の親世大夫と緑威関係に「たゞならぬから、旗をあげて江戸へ赴き、親世の名前を許され親世座の一員となりました。そしてそれまで根拠地としていた松垣本、そして古野との關係を完全に断ち切ったのです。それは、自らが初顎を積んで獲得した優れた技芸を後世に伝えるために、松垣本猪塚が選抜した致し方のない方策でした。一座が江戸に移りその活躍の場をひるび、芸術性を高めていく一方で、一座を生み育てた松垣本をはじめ吉野では、やがて忘れ去られた存在となってしまったのです。

雅楽といふのは奈良時代に中國から伝來した「散策(さんがく)」がなまつて「さるがく」となったものとされています。猿の字を取ったのは平安時代以降のことです。歌舞や曲が、源氏物語などの物語や言葉遊び、宮廷や社寺の祭礼などの余興として演じてきました。鎌倉時代に歌舞劇としての形となり、奈良時代から大和四座と呼ばれていました。雅楽としての狂言に分かれ、明治になって雅楽と呼ばれるようになりました。

能楽の三手方に五流あり、そのうちの飯世、宝生、金春、金剛の四派は、猿楽時代から大和四座と呼ばれており、奈良が発祥の地です。

その観世座と古くから深い関係にある本郷は、本町に拠点を置いていました。本郷は春日若宮社などをも参勤していた本郷本座は、このほかにも元禄二年(一六八九)の「舞上散策」にも記載されています。

会堂」にも「一族と連絡をもつた貴族とす  
郎吉久と假世大夫の共演が記されて  
います。さらに、室町時代には検坦四郎  
彦四郎などが元福寺大乗院家へしば  
しば参勤しており、「釋尊傳記」には「祐  
もひ「四郎上手」と記されていますし、  
鷺尾隆康の日記「三水記」の享禄二年  
（五二九）五月三日条には、彦四郎が  
親世弥次郎とともに勧進猿楽に参加  
して「さき」とお詫せされています。また  
室町時代の後撰「萬叶集」や「第集」  
は検坦本彦四郎ないしは彦兵衛の作  
とされています。

検坦本彦業座には彦四郎や彦兵衛の  
名で歌を通すとする歌業者があり、代々  
笛の名手として知られています。まことに  
室町時代の終わりころには、庵に全く  
部大夫國忠と子左衛門國広父子がて  
て、ともに大蔵の名人でした。特に左  
左衛門は織田信長の知識を得たり  
この時代までの文化人細川幽斎の

跡証を勤めたりしてます。また、与左衛門は各地の弟子の育成にも力を尽くしていたようで、弟子であった越前北の庄の豪商田堀部藤久郎に与えた太鼓囃などのたくさんの資料が福井県で発見されています。

既世座を通じて中央とも関係をもつていた松垣本賀業ですが、本郷地である松垣本の地を完全に離れることなく、古野山天満神社の野祭会の樂頭をつとめるほか、慶十三年(1616)



卷之三

九.1X15.100

標題(中英)

在寒風的野上 無不神往

(来自《新编中国石刻》)

◎ 2008年1月卷首語

所相應之於人間的考證也無多大進步，而實在於人間的考證之研究，則又更為寥寥無幾。

而家在人情上，總歸是極為可憐的。

組の新規登録が可能となる。同時に、新規登録が複数回行われた際には、



だい、男（わん）かく、おとこ

2023年7月10日

第10章(10)

内而外之說上 無平神仁

《周易》第六十一卦

#### 第二部分：实验设计与方法

（人名）之同，足令其猶如也。

地図をじっくり覗かしたところ

人能以无为而治，其德可

卷之三

# 大淀の特産物

豊かな自然は、梨や大粒のぶどうやりんご、そして、温暖な風土は、お茶の栽培にも適します。

## 梨



現在大淀町では、約七〇戸の農家が梨を生産しており、収穫期には梨狩りを楽しむ人々で賑わっています。本町の梨の栽培はいつころ始まつたのでしょうか。大淀町の梨の歴史は、今から一〇〇年ほど前にさかのぼります。場所は、奥濃平が作った「栗水園」という名の果樹園。栗平は大蔵出身で札幌農業学校(札幌農大の前身)を卒業後、大淀町に移りました。彼が中国の白梨を元にした人工交配により作り出した「凱旋梨(がちどきなし)」という梨は、色・形ともに美しく薄皮で、純白の果肉はカスもなくうっかり落としてしまふをもつものでした。ただ、黒斑病に弱く栽培が困難ではあります。だが、栗平はその後も難点の克服のため努力を怠りません。

後に栗平の二十世紀の名跡に継いだいたまうです。栗平は生涯を投身を焼き、五才の若さで、これは登録商標を受け継ぐもののがいなかつたり、北海道の同名の日本者的存在で、栗平の栽培の栽培場に残るまで、この凱旋梨の栽培は少なく、また、裏付けとなる資料は焼失(昭和十五年二月、倉庫より出火)したため正確な記録を得ることはほとんど不可能となってしまったが、栗平が栽培場に作りに燃わる人々に今も伝われば、凱旋梨の源種も樹齢八〇年を超える今も大切に残されています。

## 茶

温暖な風土であることからお茶の栽培は、古くから行われていたといわれています。ことに江戸末期宇治の製茶技術が加わり大きな伸長をとげました。その後も、製茶の機械化など研究が行われ、今や品質なお茶が全国的に知られています。

## 茶作りの歴史

今から約一百年前、瀬戸内の大淀町に栽培部(じゅうぶ)を始めたといいます。ここに江戸末期宇治の製茶技術が加わり大きな伸長をとげました。その後も、製茶の機械化など研究が行われ、今や品質なお茶が全国的に知られています。

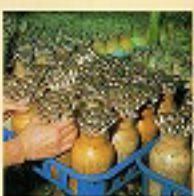
## 大淀町の名産品



ぶどう



日本酒



しめじ



茶人(せいた)は「お茶屋(おや)」と呼んで、お茶の作り方を習って中農(ちゆうのう)、中地主(ちぢしゆ)と呼ばれていた。お茶を育てて栽培(さいばい)して、お茶を販売(はんばい)するところが、お茶の栽培(さいばい)の始まりとなりました。



## 梨



茶人(せいた)は「お茶屋(おや)」と呼んで、お茶の作り方を習って中農(ちゆうのう)、中地主(ちぢしゆ)と呼ばれていた。お茶を育てて栽培(さいばい)して、お茶を販売(はんばい)するところが、お茶の栽培(さいばい)の始まりとなりました。



吉野路大淀 i センター（道の駅）

地元特産物品の販売、喫茶・軽食のほか、イベントも開催できる多目的コーナーなどもあり、観光客の休憩所としても利用されています。

また、情報コーナーでは、吉野地方の歴史・文化・観光の案内、道路・気象情報の提供のほか、歴史街道「修験者・移境ルート」を紹介しています。

吉野杉の木の温もりが心地いい…

屋根から突き出たの2つのトップライトは、修験者の額につける「頭巾」をイメージ

- 楽しむ** 露がな自然と大歓の恵みいっぱいの特産物を販売
  - ふれあう** イベントや行事などに利用していただけます!
  - 食べる** 心地よい安らぎの空間で旬の味をお楽しみいただけます
  - 集める** 吉野地方の歴史、文化観光、イベント情報満載!
  - 和む** 地元の薪窯の朝取れ野菜満載!



# NARA ACCESS MAP

アクセス  
マップ



◆第五章 機器學習的演進

- JP西日本 --- ☎ 0670002496
  - 近畿・大・阪 --- ☎ 06-5771-0105  
名古屋 --- ☎ 052-561-1904
  - 関東支店 --- ☎ 03-3820-2100

### 近畿吉野城利用の場合は

- もよりの家... 近畿道野原 下り口駅

## 自動車の利用の報告

- 大阪方面より……西名阪・高山西JCT→国道24号(橿原市猪飼)→国道169号  
取石西宮串田→奈良奈良阪JCT→国道165号(大和高田ハイウェイCS)→国道169号
  - 京都、奈良方面より……国道24号(奈良阪JCT)→国道169号
  - 毛呂山方面より……名張国道→針ヶ川→国道318号→国道270号→橿原吉野御室生寺封跡線→国道169号

## **大淀町商工会**

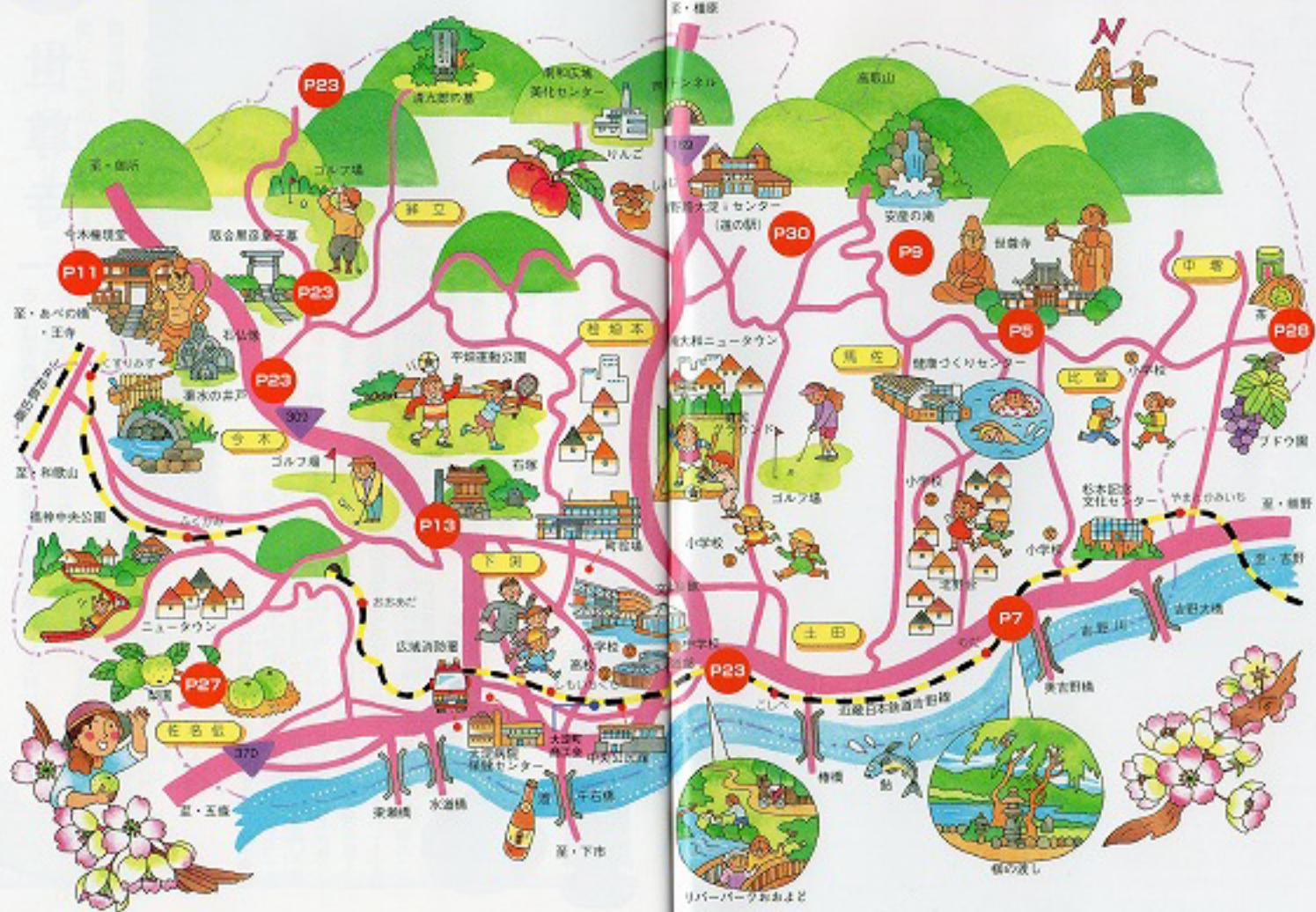
〒638-0821 吉野郡大淀町下渕906-1

TEL.0747-52-9555 FAX.0747-52-8397

URL:<http://www.yoshino.or.jp/oyodo/index.html>

おとぎ

## 大淀町探索マップ



世尊寺

古くは吉野寺、比蘇寺、現光寺、栗天奉寺とも呼ばれ、



災や時勢の変遷に遇い、現在残つてゐる建物は後世に再建されたものです。

古くは吉野寺、比叡寺、現光寺、栗天寺等  
とも跡は残る聖徳太子が創建したとされ  
ます。後行者が金峯山入峯前にこの寺に宿泊  
修行したことから、行者道分道場ともいいま  
す。境内には東西南北路である礎石が残り、  
縁起では更埴は用明天皇のために聖徳太子  
が、西蕃を破り天皇のために推古天皇が建立  
したとあります。

日本書紀の記録や寺に残されている瓦などから、少なくとも後醍醐天皇（7世紀後半）には存在していたと推測されます。



は、國內諸々教説が納められました。この  
位には聖徳太子像、文殊菩薩像、馬頭門、天孫  
弁財天像、毘沙門天像など残って  
います。本堂の背後には聖徳太子御子稚子と  
伝えられる増上様や「世にさかる花にも空氣  
まうしけり」の御歌の句碑もあり、様のところ  
には落花も美しい、ひつそりと  
した風情に包まれ、離れた  
名所のひとつです。

あがつたので、その一體を聖徳太子が建てた比  
曾の世尊寺に安置させた。

くすの木伝（比曾）伝説 1

大説伝

欽明天皇の「いざ、難波の海沿に」一本のふしき  
な木がたたよっていた。その木は、まるで太陽の  
もの。光りかがやいていた。その木は、まるで太陽の  
葉は、そのうわさをきかれると、すぐ「けりひ  
の人にじつけ」と、それをしらべさせた。  
けりひは、海にほこってそれをみると、光って  
いたのはくすの木であることにあちがいはなか  
つたので、そのことを天皇に報告した。  
そんなに光かがやく木はめずらしいので、天  
皇は漁師にじつけでそれを拾いあげ、仏像に  
命じて「この仏像をきさせた。

そんなに光ががく木ほめずらしこので、一天は漁師にいひつけてそれを拾いあげ、仏像にむじて「この仏像をきさめた」すばらしくいづらばな、光ががく仏像ができる



史跡

# 柳の渡し

古く吉野川で六つの渡し場として栄え、その二つが柳の渡しです。



古代、橋もなく流れのままであるところでは、静かな川の奥深い舟を渡さざる限りでした。それが渡し場といつて栄え、吉野川には、六つの渡し場があると言われています。なかでも六田の柳の渡しは、古くから人に知られ、大延八年まで「六田の渡し場の渡船は、残つてしまつた」。

この六田の渡し場を説け、行者の通路を開いたのは、「修験道の興隆」力を入れた聖空理尊大師といわれています。

また、「この柳の渡しは修験道（義賀）の七十五箇所の行場（七十五場）の最初の行場として知られています。がて吉野に入る行者たちは、川で身を清めていきました。現在は、この場所に打築と柳の木

が残っていますが、こりには昔の柳の渡しではなく、かつてはここより上流八十メートルの地点にあったたどき渡辺になつて分かつてあります。これは、祭道から国道に変わった移工事によつて移転を本腰なくされたものです。また、往時の道標は、正面が吉野川に向かって建つられたものが、数度の移転によって正面が国道側に向けられたため、道標の指示方向が全く逆になっています。これは、灯籠の正面が国道に向かっていないと体験が終わることから今日に届つてしまつて、歴史の変遷を物語るひとことです。

淀説

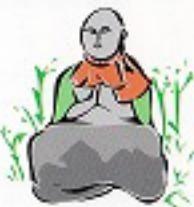
## おこり地蔵（北六田） 説説

北六田にありのれている地蔵さんを、「下の地蔵」といふ。「おこりの地蔵さん」とは、「ことなる地蔵」といふ。むかしむかしのひと、あるじたはんといふのむあそそぐらぎなねじめあらだ。

この男は、お地蔵をほかにして、「わこし」ばらなんが、もつあてるからだ。「えこひー」わわわおお地蔵さんのおへりうつ、「つ」と出をましたのだそうである。するとひつもじにひつ頭をしてひがいの地蔵さんが、「こわい顔になつて、ぶんぶん怒りた」と、おこはよててやる。「とらつたかと思うと、おこはよててあみしたまは、たゞまち足がたたなくなり、おまけに口唇の上あいの口はあわてて、大きがせした。

やつてあみしたまはんの賣額は、ひづりして、お地

と/or



蔵さんの面へとんでくると、「えへか、轟川のやつをゆるしてくだりませ。これからは、もう一心を入れかえさせます」と、おまつつきをさせてやれりあすから、かんじしてやりへんださらあせ」「えこひー」て平あやまりにあやめたので、やつとゆるしてやらえたといひ。八月二十四日ま、地蔵堂で「燈籠」という米をあつあつもきつて、おせな入する行事が、今

にひづりうるが、おこらせやむじめにあらじつうのや、あみしたまほのやうないたずらは、こわがうてだれもようしならじつう」とある。



## 史跡

## 壺坂峠越え大淀古道

吉野における仏教文化の  
はじまりと共に栄えた古道。



## 壺坂峠越え 大淀古道

## 散策MAP

高取町の壺坂寺から大淀町の近鉄六田駅までの散策ロードを紹介。  
豊かな自然に溶け込みながら、美しい景観に心も洗われるはずです！

壺坂寺までは高取町の近鉄奈良白鬚からバス壺坂寺前(約4km)をご利用す  
ると便利です。

コース内容  
(全長:11.9km)

## 出発 壺坂寺

徒歩 約0.5km

## 五百羅漢

徒歩 約1.8km

## 高取城跡

徒歩 約3.8km

## 安産の滝

徒歩 約3.0km

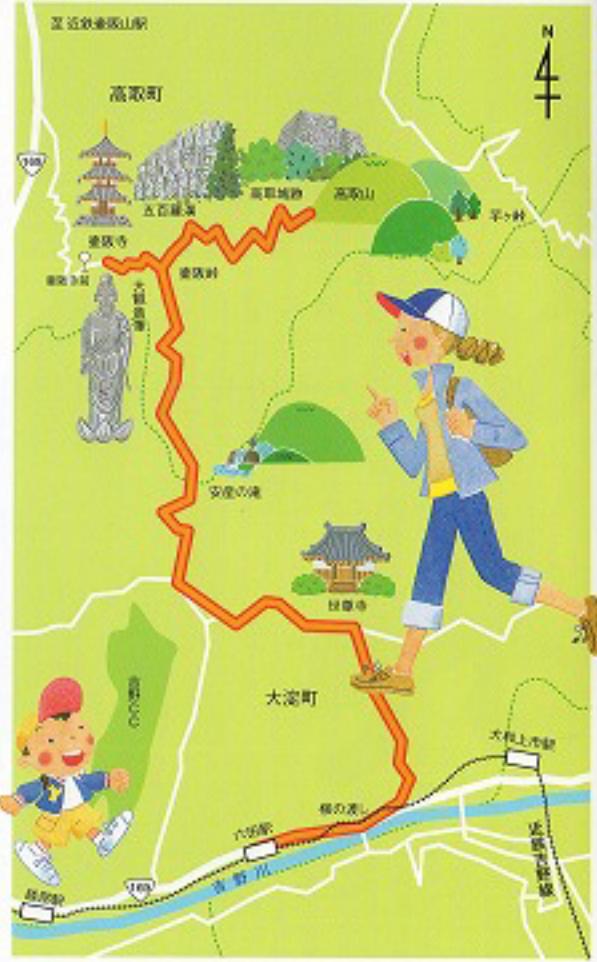
## 世尊寺

徒歩 約2.2km

## 柳の渡し

徒歩 約0.6km

## 到着 六田駅



いじょく、貴族が飛鳥から吉野に入るもつとも平坦な道は、巨瀬路から今木を通り下流に抜ける道でした。通国でですが、大勢連れで越すには二番良い道で、最も古くに開けました。これに対し、壺坂を越えて吉野に入る道は、直線コースではあるものの、非常に険しい道でした。しかし、この道を越えてたらさられた仏教文化は壯麗な吉野寺の建立につながり、吉野における仏教文化のはじまりとなりました。平安貴族はこの道を通り田口に出て吉野寺に参り、六田から通しを経て吉野に入りました。その後も修驗道の路感と共に栄えました。田口集落から離れるところ数百メートル、安産の滝の上にあつた安佐寺は、その由緒は不明ですが、藤原朝時代の作と思われる優秀な仏像が安置されていたことから立派な寺であったことが想られます。大淀



## 伝説 3

## 大淀説

安産の滝  
(田口)

田口から、壺坂街道を少し北に進んだところにある小さな滝です。昔は、お産をする人がこの滝に打たれると安産できるとの言い伝えがありました。名前のいわれは近くに安佐寺があったことから、アサがアンサンに変化したと謂われています。

# 今木権現堂

修験者が金剛力士像に参拜し旅の安全を祈願したとされる貴重な文化財です。



史跡



吉野山の蔵王堂と並びつながりがあるとされる今木権現堂は、古野山と同様、毎年四月十二日に権現祭という会式が行われます。

古くから全国の修験者が集まり、

明ました。



この力士像は吉野山でも蔵王堂を除けば本町にしかない貴重なもので、町の文化財に指定されています。阿形像、吽形像いずれも像高100センチ、台座高二十センチ、三センチの力強い、力勁毅にあらわされた堂宇とした作風です。



## 淀説 泉徳寺のてんぐ (今木)



吉野川流域に広がる大淀町には绳文、弥生以前の時代から私たちの祖先が住みつき、狩猟や漁労などで生活を営んでいました。古墳などの通路も数多く残り、そこからは土器のほか、石槍、石鎌などの石器や鐵刀、馬具なども出土しています。

今木の泉徳寺は、真言宗の寺であるが、この寺の「玉門」には、てんぐがいるといわれています。そのてんぐは、境内の大木の脇のうちに飛んできたもので、そのまま年に王門の「玉さん」と二体ともたずされてやつてきたといふのである。村の下大手道内の方に向ててんぐ森と称する、うつそうとしげった森があるが、その名前からいって、泉徳寺にいるてんぐのじつめに住まっていた場所は、その森だいたのかもしない。



## 埋蔵文化財



吉野川流域に広がる大淀町には绳文、弥生以前の時代から私たちの祖先が住みつき、狩猟や漁労などで生活を営んでいました。古墳などの通路も数多く残り、そこからは土器のほか、石槍、石鎌などの石器や鐵刀、馬具なども出土しています。

史跡

# 石塚

道中の安全と済行を  
祈念したと云われています。



この石塚のある車坂峠は、吉祥草寺、古瀬から金峯山上への山伏道の重要行場で、大正十二年まで後行者を本尊とする行者堂(ごりやうどう)にあつたことを示す「鬼之院」の行場跡の記念碑が立っています。

石塚の由来は、今から三〇〇年前、後小角寺の地から吉野達山を望み、山上ヶ岳を園山の地と定めて吉野川で禊(みそぎ)をして大峯山に入峯したところから始まつたと云われています。

晴れた日には当地からは大台、大乘連峰がくっきりと認められ、修験の人々がいまもなお石塚に訪れます。



淀伝説

## ひらはたの石塚(下剣) 行説 5

吉行の安全を祈願した。

下剣の北方には源じひらはたとごうへんじの山があり、その峰のひたたきに、高さ約五メートル、周囲約110メートルばかりの大きな石塚があり、通称これを「ひらはたの石塚」といふのです。

ひらはたの石塚は、いわゆる「大きじゆで圓いじゆ」の形の石塚を「ヒラミツド」形にいふあげ、その頂上に「もみの木」一本植えられてゐる。

この道は、吉野口、今木方面から下剣、下市へ越えてくる田舎道で、大乗山にあまりりをする修験道の行者たちは、千石楊を渡つて市から深川へはいるが、また吉野川沿いにさかのぼり、柳ノ渡をわたって吉野山を越して山上へいくのがいすれかの道をとったが、いすれもこの説を越えたので、むかしはかなりにきつい、頂上には京原もあった。

京原までくると、大台、大乗の諸山が一望のうちに眺められるので、行者たちはここを第一の行場として、身

を吉行の安全を祈願した。  
そしてこのあたりは、石塚が多くて歩きにくい山道である。たゞ、さかのぼつて、あらかじめ、そのか行者たちは、「その石塚」といふてそれを頂上へはいるて石塚をつくら」とか、「見事しなければならぬ」と僧侶行事として開拓化されるようになつて、今のような石塚がつくられたといふわけである。

交通機関の発達以前から、今はこの道を遡る人のすがたは、まことに想え、生いしける難事に遭はれてしまひるありさまであるが、それだけに、そういうなかで残されて居る信仰遺跡をみると、よけいにゆかしく先祖たちの心が想はれる。

まあ、かつてその石を、持つかえつて家の襖門にした者がいたが、その人は、たゞまち靈籠にかかるばかりでなく、度重も要請したというやうないし伝承があり、今までそのもので、行者たちはここを第一の行場として、身にたれもそれにさわるといふこともない。

さかさ竹  
(鉢立)

行說  
6



詳立の清九郎さんといふは、日本国中に名前を  
こえた、たいへん名高い妙好人（舊心深い人）で、あ  
りがたい話が、いろいろと伝えられている。

さんがお山をとなんながら三月をわたるのとくる」と、  
「山の上には漁丸頭あるのね」といふだけ水が一  
つもわれて漁をひいつ。難なく向う岸へひいつと来た  
きたところだ」となど、だれにぞも知られてゐる話で

大傳說

血のえないひる（持尾）

行號  
7

（音楽）  
「おおきな世界」  
姫坂寺へでよへとして、弘法大師が持尾を通りて

が食べたくなつたので、そのじんを村の人たちにたの



のどがかわひたので、したたり落ちる水を両手で  
つかむと、口から血がこぼれてくる。おじいちゃんの口  
が、口ひげのほうへ倒れた。弘法大師は、「たぶん彼  
にかく、せらわゆをじめ」と、血をすねの上に吐いた。  
「口を、あきらめなむやうにしておいたんだから」と、おじいちゃんが、  
それから「お、」とあたうのわざば、かがんで口にな  
つてこ無いで、血をすねへとおどすばかりだらけ  
になれるといふ。

